

# このスポット・おすすめ!

あなたはレッド派? グリーン派? アジアンキッチン サイルーン  
自家製ペーストのタイカレーが好評

本場のタイ料理やベトナム料理と同じ原料を使いつつ、誰が口にしても普通に「おいしい!」と思えるアジアンフードが食べられるお店。読谷村長浜の住宅街にオープンして3年が過ぎ、気軽に立ち寄れる地元のごはん屋さんとしてすっかり定着しました。何よりお店の味を支えているのが、沖縄県産の野菜やハーブを約10種類ブレンドして作る自家製のカレーペースト。オーナーシエフの天尾孝之さんが試行錯誤を重ね、「コクと旨味が凝縮した口当たりのよい味わいの中に、アジアの空気が感じられる絶妙のテイストを突き詰めました。このオリジナルペーストをベースに、グリーンカレーとレッドカレーを作り分け、他にもさまざまな料理の味付けに使用しています。昼のメニューは人気のカレーをはじめ、全品サラダ付きのセットが7種類。夜はアラカルトが中心で、タイやベトナムのお酒も楽しめます。20名収容の店内には小さなお子様連れにうれしい小上がり座敷もあり、事前予約も受け付けています。

10月はお店を飛び出して、21日(日)は読谷村の座喜味城通りふれあい祭り、28日(日)は宜野湾マリィナで開かれるオキナフフードフェアに出店します。野外で味わうタイカレー&アジアンフードもそそられますね。

住所: 読谷村長浜1849-4 ラピスラズリ 1F  
電話: 098-923-5949  
営業: ランチ 11:30~15:00 (LO14:30)  
ディナー 18:00~22:00 (LO21:30)  
休み: 日・木曜日  
駐車: あり  
◎Facebook, Instagramも随時更新中♪  
(おもなメニュー)  
●ランチ(全品サラダ付き)  
●県産若鶏と旬のレッドカレー.....820円  
●海老と茄子のグリーンカレー.....870円  
●レッド&グリーンハーブ&ハーブ.....850円  
●フォー・ガー.....700円  
●カオ・ソーイ.....900円  
●ディナー  
ランチの単品メニューをはじめ、アラカルトが30種類以上!



## 読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『アジアンキッチン サイルーン』で使える

2,000円分  
お食事券  
3名様



9月号当選者 前号の答え(カラス)  
★松田 由紀さん(読谷村在住)  
★玉城 ともえさん(読谷村在住)  
★よぎ まひろさん(読谷村在住)

## ワイワイ広場

### 読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良皆237-1 ワインズ『広報誌係』

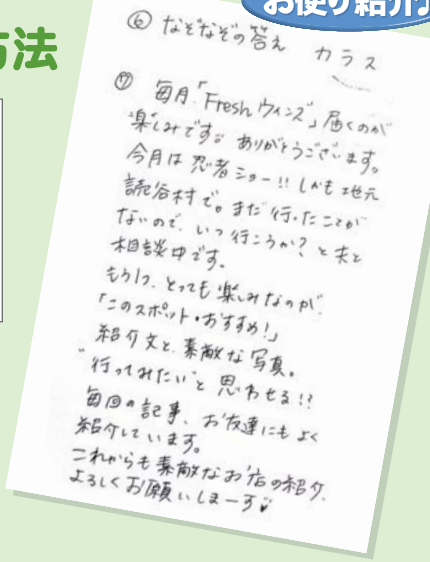
①住所 ②氏名  
③年齢 ④職業  
⑤電話番号

裏 ⑦ご意見  
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2018年10月20日消印有効  
「当選者は次号(Vol.170)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様に配布致しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



# Fresh Wines

人と人とのつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌

60th Anniversary  
Fresh Wines  
2018年 10月号  
Vol.169  
TOKYO 2020



0120-229-512 ウインズ 池原建設 検索

住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

### 今月の歳時記

- 10月6日(土)・7日(日) 第38回 野國總管まつり  
会場・開催地/嘉手納町・兼久海浜公園
- 10月20日(土)・21日(日) 第13回 読谷やちむんと工芸市  
会場・開催地/読谷村・Gala青い海
- 10月21日(日) 第9回 座喜味城通りふれあい祭り  
会場・開催地/読谷村・座喜味自治会館、座喜味城通り
- 10月27日(土)・28日(日) 第44回 読谷まつり  
会場・開催地/読谷村運動広場周辺

10月の沖縄は秋祭りラッシュ。最終週の読谷まつりをはじめ、週末ごとに各自治体を代表するような大きな祭事がめじろ押し。月末のハロウィーンも今ではすっかり季節の定番イベントになりました。荒天に泣いた昨年の分まで、今年は好天の下で大いに盛り上がりたいたいですね。





ストリートストーリー

# Street Story!

## 自分の「ルーツ」を探る旅。郷土を思う気持ちを継承するために。 関西地方に住む読谷村出身者らが2泊3日の民泊体験



■今年6月にオープンした世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム前で記念撮影。記念すべき第1回目の「民泊体験」には8名が参加しました

関西読谷郷友会が主催する「よみたん民泊体験」が8月26日から3日間の日程で行われ、関西地方に住む読谷村出身者ら4世帯8名が参加しました。日中は高志保大通りエイサー天国やユンタンザミュージアムなど村内の見どころを巡り、夜は2泊とも一般民家に宿泊。3日目には村役場を表敬訪問し、全員が那覇空港から帰路に就いた翌日、今回の企画の立案者である前会長の松田茂さんと、現副会長兼事務局長の向恵子さんに話を聞きました。



■関西郷友会前会長の松田茂さんと現副会長の向恵子さん



■観光スポットの見学と合わせて、民家での夕食づくり、平和学習(子ビチリガマ訪問)、村役場・村長室の表敬訪問などの体験メニューも盛り込み、内容もりだくさんの3日間でした



「昨年暮れに計画が具体化 会報を通じて参加者を募集」  
「関西読谷郷友会」は、近畿6県に住む読谷村出身者とその家族、及び読谷村にゆかりのある人たちが構成された親睦団体です。1985(昭和60)年の結成以来、村からの関西受け入れ窓口の役割を担い、現在は68世帯が所属しています。3年前に開催された設立30周年式典の様子は、本誌135号でも取り上げました。  
今回の民泊体験の企画が正式に持ち上がったのは昨年11月。前会長の松田茂さん(読谷村大湾在住・当時は神戸市在住)が退任・帰沖を前に、「今後の新体制の下でぜひ実現してほしい」と以前から温めていた「読谷ウムヤー(想う人)づくりの構想を披露しました」。  
「郷友会発足のメンバーも高齢化が進み、今や世代交代の時期。関西で生まれ育った2世・3世の皆さんに、読谷への関心・愛着を継承していくことは喫緊の課題です。一方で、読谷村では長年にわたって、修学旅行生などの民泊を受け入れてきた実績があります。郷友会でもこの仕組みを上手に利用すれば、自身のルーツを再確認・再発見する契機になり、読谷ウムヤーを育んでいけるだろうと考え

ていました」と松田さんは振り返ります。

翌12月に開かれた定期総会で、新たに開かれた定期総会に選任されたのは、2年前まで「NPO法人ふたば」の事務局長として「神戸市立地域人材センター(現ふたば学舎)」の運営にあたり、昨年の本誌156号でもご紹介した向恵子さん(嘉手納町出身・神戸市在住)。さっそく総会の場で「来年の夏は読谷村で民泊体験を企画している」ことを告知したところ、参加意欲を示す声があちこちで上がり、「予想以上の反響。なんとか第一歩を踏み出せそうだ」と確かな手ごたえを感じました。

コーディネーター役として奔走し、村をはじめ観光協会、民泊協会などを巡って協力を仰ぎました。

社会経験豊富なお2人とはいえ、「すべてが初めての試みとあって、一つ一つプランを立てるのも手探りの状態。来年度以降への検証の意味も兼ねて、今回は少人数のツアーにしたいと考えていました」とのこと。最終的な応募者は8名。「8月下旬に新学期が始まる学校があることや、9月初旬にテストを実施する大学があることを把握できず、参加意欲のあった家族や若者をカバーしきれなかった」という誤算はあったものの、それでも「読谷系2世」の小学生2人を連れた親子1組が参加し、他にも妻側が村出身者の夫婦2組と、読谷をこよなく愛する單身男性1人が集まりました。

### 宿泊先の民家から大歓待 記憶に残る濃厚な3日間

開催を8月に設定したのは、「郷土への思いを世代間で継承することがそもそもの趣旨。夏休み期間なら親子で参加しやすいだろう」と見込んでのこと。また「せっかくなら本場のエイサーを見てほしい」と考え、旧盆翌日の8月26日に行われる高志保大通りエイサー天国に合わせて、日程の調整を進めました。関西在住の会員に対しては、向さんが「郷友会だより」を発行して正式に参加者を募り、現地・読谷では前会長の松田さんが

2日目の夜は、読谷村大木にある民謡スナック「寿の華」へ。関西読谷郷友会で毎月開



■民謡スナック「寿の華」。大阪で練習した三線の腕前を本場・読谷で披露

催している三線教室で、最初に手ほどきを受ける「読谷山シューライ節」が生まれたのがこのお店。いつもは大阪で弾き語りしている故郷の歌を、唄主の國吉真勇さんと一緒に「本場」で堪能しました。

そして最終日には読谷村役場に立ち寄り、職員一同から歓迎を受けながら、村長室を表敬訪問。「普段の帰省や単なる旅行では決してできない貴重な経験。一人一人の心の中に、特別な記憶として刻まれたのではないのでしょうか」とお2人は口をそろえました。

### より参加しやすい 企画を模索中 12月には来年の日程を発表

「3日間の日程を無事に滞りなく終えられたのは、ご協力いただいた関係機関の皆さん

のおかげ。心から感謝を申し上げたい気持ちでいっぱいです」と謝意を繰り返す松田さんと向さん。今回の民泊体験を単なるツアー旅行として企画せず、村をはじめ関係機関にあえて協力を呼びかけたのは、「関西地方における村からの受け入れ態勢を強化したい」という思いがありました。

周知の通り、読谷村は観光誘客やスポーツキャンプ地の誘致に力を入れており、全国で「読谷ファンづくり」を進めています。その一環として、県外の自治体を村長らが訪ねて、イベントなどを行うこともしばしば。継続して交流を重ねていけば、おのずとお互いの関係も深まり、読谷ファンの読谷に対する思いも次第に深化していきます。そして今回の民泊体験のような企画を通じて、読谷にルーツを持つ人材を掘り起こしていけば、関西・読谷間のパイプはおのずと維持・強化され、両地区の交流はますます活発になることでしょう。

松田さんと向さんは第1回目の反省点を踏まえ、早くも来年に向けた準備に着手しました。参加者・宿泊先のホストファミリー・協力を仰いだ関係機関から忌憚のない意見を集めて、より参加しやすい企画形態を模索中。「今年12月



■3日目には読谷村役場で離村式。読谷の皆さん、今度は私たちが関西で待ってるよ!



に開かれる定期総会までには、開催日程と大まかな内容をまとめて、会員の皆さんにお知らせしたいですね」と話しています。